

## 読書サポータースキルアップ講習会(2月10日実施)

### 参加者からの質問への回答について(講師:佐藤 由紀枝 氏)

Q1\_絵本を「淡々と」読むとのことでしたが、最近マンガ家さんや芸人さんの作られている絵本は勢いのあるものが多く、どう読むのだろう・・・と感じてしまいます。(ただただ楽しくて自分が好きなだけですが・・・)「ねこいるー!」など、まず読み聞かせとして使用しない方が(避けた方が)よいのでしょうか?

A1 楽しい絵本ですよ!

読み手が読みたい(やれる)のであれば、避ける必要はありませんが、勢いのある絵本ばかり読んでしまうのは、少しくどくなってしまうですね。

おはなし会のプログラムの中で、気分を変えたり箸休めとして使うといいと思います。

読み方としては、講座でもお話したとおり、あくまでも絵本が主役、読み手は黒子ですからやりすぎは禁物ではあります。

しかし、絵本のテイストによっては「他の本に比べれば」、「やりすぎ」かも、位にやったほうが良い場合もあります。

『えがないえほん』(著: B・J・ノヴァク 訳: 大友 剛)も、振り切ってやらないと、絵本の良さは出ません。

作家さん本人が“絵本ライブ”として楽しい読み聞かせをされていますが、あれは作家さんだから表現できる域のものもあると思うので、単純に真似をしてもうまくいくとは限らないと思います。

読み手の雰囲気(個性)、子どもたちとの関係性、相性などによっても、その読み聞かせが成功するかは変わってきます。

どのような絵本でも、その絵本を自分が楽しんで理解して自分が飲み込んだものを、表現(アウトプット)するとなれば、多少の色はついてきてしかりだと思えます。

「淡々と」「抑揚」の二択で考えるのではなく、「その絵本を表現するために？」と考えてみてください。それが絵本によって「多」「少」の差があるのだと思えます。

しかし、あくまでも黒子として、「この絵本面白かった」で終わるよう(「あの面白かった」にならないよう)には気を付けつつ、絵本の良さを表現してください。

さじ加減は難しいですね。詳しくは、講座などの機会があればじっくりお話しして、実演もやっていきたいと思えます。

Q2 本を選ぶ時、今、ひとり親家庭が多くなり、その子のことを考えると迷ってしまいます。(内容は良いのに)あまり気にしなくてもよいものでしょうか？

A2 あまりにもステレオタイプの家族像・ジェンダー意識のものは、気になりますよね(特に読み継がれている絵本に散見されます)。

絵本はたくさんありますが、読み聞かせの時間は限られたものです。読み手が少しでも気になる部分があるものは、避けた方が無難かもしれません。

しかし、本題がその部分でないものや、押しつけてではないものは特に気にしなくてもいいと思います(ジェンダーの役割分担も、話の筋を分かり易くするための記号である場合も多いので・・・でも気にされる方は気にすると思います・・・)。

ただ、「〇〇とはこうあるべき」と押し付けるものは、避けた方がいいと思います。

読み聞かせのイベントとは異なり、学校での読み聞かせは基本的に「全員が聞かなければならない」もので、嫌だから、辛いから離席するという事が難しい環境です。

様々な家庭環境、障がい、困難を抱えているお子さんがいる(可能性がある)中での読み聞かせなので、(すべてに配慮はできないにしろ)読み手が色々と想定して選書することはとても大事な視点です。でも、考えすぎると何も読めなくなってしまいますよね。(「朝ごはんを食べていない子もいるから食べ物の絵本も×」という考え方もあったり・・・。個人的には食育的な内容のものでなければ問題ないとは思いますが・・・)

時代背景が異なる、読み継がれている絵本以外でも(最近出版されたものでも)、注意が必要な絵本もあります。

「子どもの心にそって」「子どもの視線で作られ」「子どもの心を満たす」ものなのか、大人(親)の主観(エゴ)で作られていないか(読んでいないか)、確認してみてください。

感じ方は人それぞれです。読み聞かせの仲間同士で、気になる絵本についてじっくり話をする時間がとれるといいですね。

その際には、私も是非ご一緒したいです。

Q3 外国の絵本の登場人物が多い場合、子どもがストーリーの流れを把握しづらいときがあり、声を少し変えたりする以外で何か工夫することがありますか？

A3 伝わり方は読み手の技量（上手い下手というだけでなく、読み手がきちんと作品を理解して読めているか）でも変わるかもしれません。

とはいえ、声色を登場人物全員分使い分けるのは無理ですし、できたとしても子どもたちが混乱すると思います。

子どもの声は少し早口で少し高め、おばあさんやおじいさん（魔女など）はゆっくりめの低め・・・（性格がのんびりかせっかちかでも変わります）くらいの使い分けでいいと思います。Q1でお答えしているように、やりすぎは禁物。

大事なのは、読み手がそれぞれの登場人物をきちんとイメージして読めているかだと思います（例えば登場人物が小さな男の子だとしても、具体的には何歳くらいで、やんちゃなのか引込み思案なのか、おっちょこちょいなのか、生意気なのか、優しい子なのか、思慮深い子なのか、意地悪な子なのか、お兄ちゃんなのか、弟なのか、お姉ちゃんがいるのか、妹がいるのか、都会の子なのか、田舎の子なのか、誰に向けて話している言葉なのか、その時の感情は・・・によって、かなりイメージは変わってきます）

外国の絵本や登場人物の多さ以外でも、最近は日本の昔話もイメージしにくい場合もありますね（笠や囲炉裏がイメージできないなど）。

しかし、お話の筋がしっかりしている物語であれば、多少知らない言葉があったりしても問題ないと思います。最初から解説するのではなく、途中で子どもたちから質問が出たら、簡単に説明する・・・位にとどめた方がいいと思います（その言葉への理解が大前提の場合などは、少し解説したりもしますが、最小限で）。

（余談ですが、子どもたちから質問が出そうな事は事前に調べていきます。例えば「3文は何円？」「どのくらいの大きさ？」「それは本当？（フィクションじゃなく現実でもそうなのか）」など）

ただ、子どもたちがストーリーを把握しにくいのであれば、その物語がまだその子どもたちには背伸びしすぎ、なのかもしれませんね。

絵本やおはなし（素話）などには、それぞれ「対象年齢」が書かれているものもありますが、あれはあくまで目安ですし、普段から絵本やおはなしを聞きなれている子どもかどうかも変わってきます。

ストーリーに置いて行かれてしまっては、その子はもうその時間を楽しむことはできません。その時間だけでなく「絵本」「読み聞かせ」を「楽しいものではない」「面白くない」「自分にはあわない」と思ってしまうかもしれません。

「子どもたちに読書への入口」を示すのが「読み聞かせ」です。いい絵本を、良いお話をという気持ちもわかりますが、背伸びをせず、そのクラスの子ども全員が楽しめるような絵本を選ぶよう心がけるといいと思います。

難しいかな？と思うような絵本やおはなしは、事前に読み聞かせの仲間で聞き合っ  
て、アドバイスなどできる機会があるといいですね。

同じ絵本でも読み手が違えば、雰囲気やおはなしの入りかたなどは変わります（聞き手によっても変わります）。

どれが正解、というものでもないのですが、自分も（大人も）いろいろな絵本（おはなし）を聞くと勉強になるし、何よりも楽しいですね。

大人のおはなし会（勉強会）を是非、まずは仲間内で企画してみてください！（私も読み聞かせして欲しい！）。

#### Q4\_絵本専門士は近くで勉強できる場所はありますか？

A4 残念ながら絵本専門士は年に5回東京に行かないと学ばませんし、受講するにあたっては毎年かなりの倍率のようです。ご興味があればチャレンジしてみてください。

詳しくは国立青少年教育振興機構のHPをご覧ください。

<https://www.niye.go.jp/services/ehon.html>

保育科の学生さんなどが学ぶ「認定絵本土」

<https://www.niye.go.jp/services/ehon-nintei.html>

というものもあり、宮崎学園短期大学でも令和5年度から開設され、私もいくつかの授業を担当しています。

令和6年度からは科目等履修生枠を若干名設けて、外部の方も受講できるようになるようです。

<https://www.mgjc.ac.jp/news/archives/276>

受講要件がありますので、詳しくは宮崎学園短期大学HPをご覧ください。

宮崎から東京に学びに行くとなると、なかなかハードルが高いと思いますが、近くの仲間と勉強会や講座を開催して学びを深めていくことは、今すぐにでもできるのではないのでしょうか。

私が絵本専門士として学んだ日々で得た、大切な気づきは「知らないことが沢山ある」「日々アップデート」「学び続ける」という姿勢です。

そして、「絵本って楽しいな、面白いな、深いな」ということ。

私の知識でお役に立てることがあれば共有していきたいし、私も皆さんから学んでいきたいと思っています。そういった繋がりが広がり、絵本への愛や理解、知識も深まって、ゆくゆくは宮崎県からももっと絵本専門士が生まれていくと嬉しいです。

Q5\_先生のおすすめの本も知りたい。

A5 たくさんあります！誰に、いつ、どう手渡すのか（読み聞かせするのか）によっても変わってきますね。

読み聞かせでのおすすめは、私も編集アドバイザーとして関わらせていただいた「おすすめ絵本リーフレット」（令和3年度～5年度作成。乳幼児、幼児、小学校低学年向け）に載っていますが、ページの都合で泣く泣く載せることができなかったものもたくさんあります。

宮崎県立図書館のこども室内の「読み聞かせにおすすめの本」棚も参考にさせていただけるといいと思います。季節感も考えながら絵本を選んで置いていますよ。

私の個人的なおすすめなどは、個人SNSでの発信や、講座や図書館などでお会いできた際に、時間の許す限りゆっくりじっくりお話ししたいと思っています。

一人でも多くの方々と、絵本について語らえますように。